

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500064		
法人名	株式会社 インテント		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	宮崎県小林市細野2283-3		
自己評価作成日	平成28年10月22日	評価結果市町村受理日	平成29年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&jizyosyoCd=4590500064-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念を元に利用者の尊厳や個性を大切に、一人ひとりの利用者様が、自分らしく穏やかに生活できるよう職員とのコミュニケーションを大切にしています。そのための取り組みとして、毎日の個人記録も利用者との会話内容、気分の変化等を記録に残し本人の思い(希望・要望・不安・喜び・悲しみ)を模索し、その思いを受け入れられるような対応をケアプランに反映させています。又日々の生活の中で、その方の出来る事に注目し、お手伝いをして頂き人の為に役立つ喜びや自信につながるケアに取り組んでいます。又レクリエーションでも、個々の利用者様の得意なことを把握し実践することで喜びや楽しさを感じていただくケアにも取り組んでいます。その他竹内式認知症ケアの実践、職員育成の一環としての清掃の徹底、サンクスカードによる職員間のコミュニケーションや職場環境の改善等にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のボランティアや区長の協力の下、ホームの行事に100人を超える地域の人々の参加を得るなど、地域との交流を図り、利用者のサービス向上につなげるよう努力している。サンクスカード(職員間の良い所を見つけて互いに公表し合うカード)を使い、職員が業務のやりがいを感じられるよう工夫しており、職員もサンクスカードの意義を理解し、職員間で互いに高めあえるよう努力している。竹内式認知症ケア(水・食事・運動・排せつ)を実践しており、利用者の認知度が改善するよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居様が自分のペースで自分らしく生活できるよう、その方の尊厳を守り安心して穏やかに毎日を過ごしていただく」ことを理念にあげ毎朝の朝礼で朗読し職員全員が理念を共有している	理念を毎朝職員で唱和し、理念の振り返りを毎朝のミーティングと月1回の職員会議で行っている。全職員で共有し、日々の実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や花見等に出かけ挨拶やお話しをする事で地域の方々との交流を深めている。又夕涼み会には、多くの地域の方々や子供たちにも参加を頂き交流を深めている	地域のボランティアの協力の下、ホーム前の広場で夕涼み会を開催し、地域の人々と触れ合う機会を設けている。自治会に入会しており、今後地域の行事にどのような形で参加できるかを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会やボランティアの受け入れ等を通じ施設での生活を見たり、お話しをしていただく事により認知症の人の理解や支援の方法等を知ってもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事等の取り組みの報告を行い、出た意見に対してはサービス向上に生かしている。又、行事に関しては写真入りで紹介している	区長や地域ボランティア「生き生きサロン」の参加があり、ホームの運営や地域への働きかけをどのように行うかなどの意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加していただき、施設の取り組みを伝えており、地域連絡協議会などに積極的に参加し、意見交換などを行っている	代表者が市の地域連絡協議会のメンバーとなり積極的に参加するなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は勿論、言葉、薬、等についての拘束が及ぼす心身への弊害の勉強会を行っている。どうしても必要な方については、家族に承諾を頂き、カンファレンスで必要性の検討を行っている	管理者や職員は、身体拘束の意味を十分に理解し、利用者の安全を考慮して行動が常に拘束にならないようチームで協力して取り組んでいる。日中は施錠をせず、利用者が自由に外に出られるよう職員も安全のための見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の連携を図り虐待の無い介護に努めている。又介護者の精神的ストレスを回避する為、希望を取り入れた休暇や無理の無い勤務のシフトを作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が、安心サポートセンターを利用されているが必要性があれば成年後見人制度も活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけて、分かり易い様例をあげて説明したり不明な点については質問しやすいよう配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスに出来るだけご家族にも参加して頂き、意見や要望を聴いている。園外活動や外食等については、利用者の意見を尊重しながら反映している	利用者、家族の意見・要望をホームの運営につなげるよう常に考えているが、気軽にホーム職員へ意見・要望を出せる機会や工夫が見出せていない。	利用者、家族が意見や要望を気軽に出来るよう、また、それらの意見や要望を記録できるよう工夫することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の朝礼、月1回の勉強会での職員の意見を、運営に反映している	職員の要望や意見をこまめに管理者が聞きとり、ホームのサービス向上につなげている。代表者が現場に入り、職員の仕事への思いなどを聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数による年1回の昇給やスキルアップ、資格手当等の実施、給与・昇給についての勉強会を実施し、どのような仕組みで給与が上がるのかを、周知している。又偶数月には職員同士のコミュニケーション会を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育が施設の質の向上に繋がることを十分認識し、日常業務の中で個々の職員の力量を把握した上で研修会に参加させている。又資格取得に関しても休暇の確保等研修会に参加しやすい環境を提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等で研修機会の少ない、地域密着型の施設研修を開催し職員の交流や学べる機会を作る取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人さん自身に施設内の見学をしてもらい、入所されている方・職員・施設の雰囲気を確認していただき不安や要望を十分確認したうえで安心と信頼の関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・不安・要望等を傾聴し思いを受止めながら、家族に安心感を持って頂き良好な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の不安や要望をよく聴き、日常生活の中での必要なサービスを見極め安心した生活が送れるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は出来るだけ自分でして頂くことを基本に、それぞれの能力に応じた、役割やお手伝いをして頂き感謝の気持ちや労いの言葉かけを行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との絆を一番に考え、本人にとっての必要なケア、良いケアとは何かを家族と共に考え協力を得ながら本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中に利用されていた美容室にお連れしたり、自宅や会社にお連れするなどの支援を行っている	なじみの店や美容室、墓参りなどに行ったりしている。知人の来訪も定期的であり、なじみの人や場所の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を把握し利用者同士が、関わりやすい環境の提供や、言葉かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への情報提供は勿論、家族にも必要時はいつでも相談して頂くよう話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いや要望を大切に、日々の会話の中で把握したことを記録に残し本人本位のサービスの提供を行っている	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の一部を改良して、独自の24時間ツールを作成している。そのツールを活用して、利用者の会話や行動から、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人や家族から聞き取りを行うと共に必要に応じ以前のケアマネからの情報収集にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がコミュニケーションを通じその人の心身状況、能力把握に努め一日の流れや気分の変化等を記録に残し支援に繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスには、可能な限り家族にも参加頂き現状を把握して頂いた上で意見や要望を反映し現状に即した介護計画を作成している	参加できる家族にも協力をしてもらい、ホーム独自のモニタリング表を作り、毎月のミーティングにて利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。ミーティングでの意見や要望を生かして現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を行い、本人の行動、発せられる言葉を具体的に記録に残すことにより職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにも柔軟な対応が出来るよう他職種連携に取り組んでいる		

宮崎県小林市 グループホームいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをはじめ移動の理・美容院依頼、消防隊員による避難訓練や心肺蘇生法の実技指導等安全で豊かな暮らしが出来るよう地域資源の活用を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している	なじみのかかりつけ医を基本として、家族の要望や現状に即して協力医や専門医を選定し、適切な医療が受診できるよう支援している。利用者ノートを活用して医療機関と共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康状態・精神状態の把握に努め異常に気づいたら看護師に報告し、早期受診を行い適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して医療がうけられるよう情報提供を詳しく行い、入院中も面会に行き、病院関係者との情報交換を行いながら良好な関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設で出来る事、出来ない事を十分に説明しながら方針を共有し、必要時は家族や主治医と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組める体制を取っている	重度化や看取りについては、ホームが現状でできることとできないことを契約時に十分に説明し、同意を得るようにしている。現状では、看取りができないことも説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはマニュアルを作成し、全職員に周知させている。又救急隊員による心肺蘇生法の実地指導訓練も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い利用者の安全な避難方法の確認・訓練を行うと共に、消防署・警備会社をはじめ地域住民参加の訓練を実施している	地域ボランティアの協力の下、救急救命訓練講習を地域住民と行っている。今後、災害訓練に地域の住民と消防団が参加できるよう検討している。備蓄品についても、災害時に備え充実したものとなるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを損ねない言葉使いをしている。その為の勉強会や、職員同士で気付いたら注意できるような雰囲気作りにも取り組んでいる	利用者一人ひとりに対する人権擁護の勉強会を独自で行っており、言葉かけや対応についても日頃から職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや要望を自由に言えるような雰囲気作りに努め自己決定を支援している。本人の眩きにも配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念である利用者のペースに合わせた利用者本位の生活を送って頂けるような支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時より利用されていた美容室の利用や、衣服の買い物、毎日の髭剃り(手剃り)等、個別に好みに合わせた支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れる野菜に関心を持ってもらい、成長を楽しんだり、収穫したり、出来た野菜で料理を作ったり、できる人は、職員と一緒に準備や片付けを手伝ってもらっている。又利用者の希望で急遽献立を変更することもある	ホームの菜園で育てた野菜を食事やおやつに使うなど、収穫の喜びと食事の楽しみを味わえるよう工夫している。栄養面については、週三日管理栄養士が来ており、買出し、メニュー、作り方などを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考えて献立を作成し個々の食事、水分摂取量のチェックを行っている。特に水分摂取は1500mlを目標に好みや習慣にも配慮した支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを支援している		

宮崎県小林市 グループホームいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用や一人ひとりの排泄パターンでの誘導、排泄サインを見逃さない声かけで、トイレでの排泄にむけた支援を行っている	日中は利用者全員がリハビリパンツ又は布パンツを使用し、トイレで排せつしている。排せつ表を使い、排せつの失敗が減るよう支援しており、利用者のオムツが外れた実績もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、運動や散歩、植物繊維の多く含まれた食事の提供等で、自然排便を促す支援に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体力や希望に合わせて入浴日を決めているが、場合によっては入浴日以外でも入られる時もある。又毎日入浴されている方もおられる	入浴は日中の午後に設定している。毎日入浴する利用者もおり、自由に入浴できるよう支援している。利用者と十分にコミュニケーションが取れるよう、ゆったりとした時間設定をして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者が、自分のペースで生活できるよう、自室でのくつろいだ時間や、休息の取れる環境、安心して気持ちよく眠れる為の空調管理等の支援も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の目的、副作用、用量等について、ほぼ理解している。配薬については二人で確認し、誤薬、飲み忘れの無い様努めている。状態の変化が見られた場合は、医師に報告し連携を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に出かけ気分転換を図ったり、レクリエーションに得意分野のゲームや歌を取り入れたり工夫をし日々楽しく生活できるように支援している。又その方に出来る役割やお手伝いをして頂き自信と喜びを感じ張りのある生活を送ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を頂き外食やお墓参り、自宅帰省等出きる限り本人の希望に沿った外出支援を行っている	日常では洗濯物干しや菜園の手入れ、ホーム周辺の散歩を行っている。季節の花見や外食、墓参りなど、家族の協力を得ながら外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持したいと希望のある利用者については、家族と相談の上、お小遣い程度のお金を所持されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や知人に電話の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は、季節感のある花や室内装飾を行い、リビングから見える菜園には季節の野菜を植え成長や収穫を楽しめる環境を整備している	利用者の集う居間には外光が入り明るく、居心地の良い空間となっている。共用空間は職員が毎朝掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーやイスを置き自由に過ごして頂けるようにしている。又和室にもテレビを置き思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの物や家族との写真お気に入りの物を持って来られている。又仏壇やお位牌も持ってこられて、プライバシーを大切にしながら安心して過ごせる環境を支援している	各居室は明るく、利用者によっては仏壇やなじみの家具を持ち込んでおり、利用者一人ひとりが安心して過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ない事の把握を行いその人の行動を見守り、安全で自立した生活が送れるよう工夫している		